

## A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生情報

横浜市では、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症する疾患です。抗生剤による治療が有効ですので、速やかに受診しましょう。予防には、患者さんとの濃厚接触をさけて、うがい、手洗いをしましょう。

### 感染症発生動向調査におけるA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の患者発生報告状況

#### (1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

今年に入ってから、徐々に増加し、4月下旬には定点あたり報告数は2.96と昨年のピークを上回りました。ゴールデンウィークの前後でやや減少したものの、その後さらに増加し、第23週には3.67と過去6年間で最も高い値となりました。今後の動向に注意が必要です。(図1)

平成 20 年 週 - 月日対照表

第 21 週	5 月 19 ~ 25 日
第 22 週	5 月 26 ~ 6 月 1 日
第 23 週	6 月 2 ~ 8 日
第 24 週	6 月 9 ~ 15 日
第 25 週	6 月 16 ~ 22 日

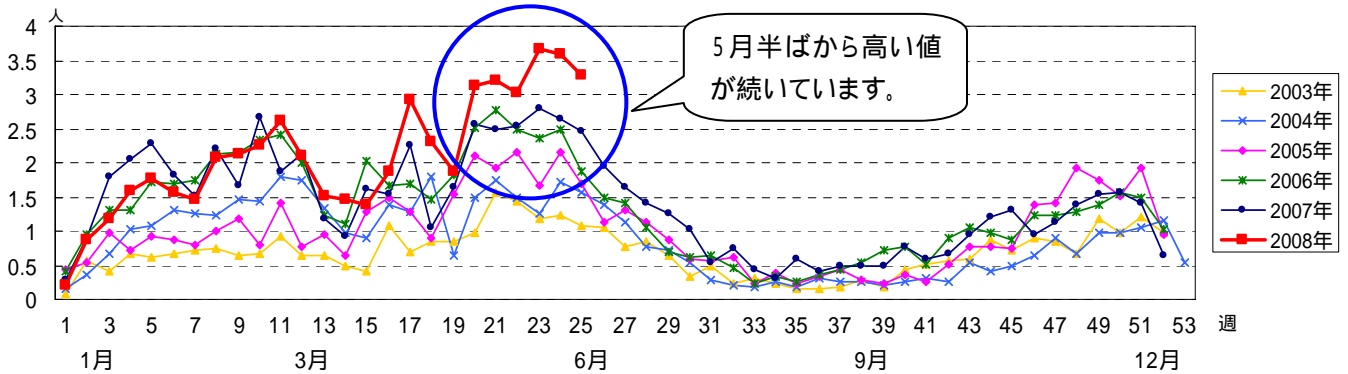


図1 患者定点医療機関からのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎定点あたり報告数

#### (2) 第21週から第25週までの年齢別患者報告状況

年齢別では、3歳から7歳にかけての報告が多く見られます。(図2)

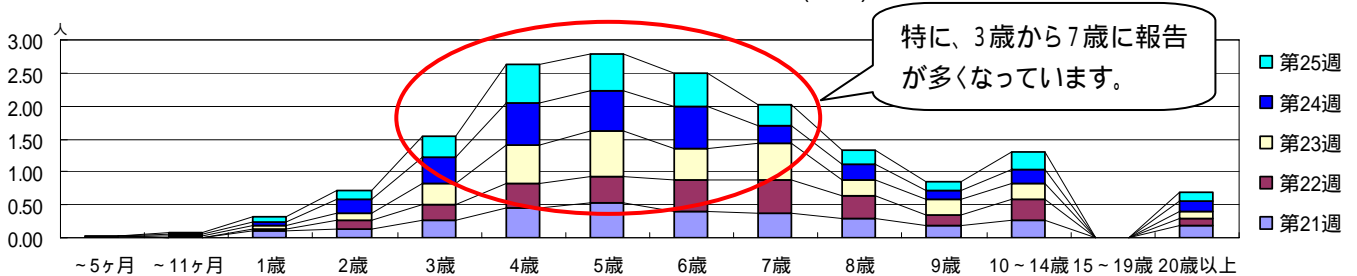


図2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎年齢別定点あたり報告数(第21週から第25週)

### 学校保健法での取り扱い

本疾患は学校において予防すべき伝染病の中では、「学校で流行がおこった場合にその流行を防ぐため、必要があれば、学校長が学校医の意見を聞き、第3種学校伝染病としての措置を講じることができる疾患」のうち、「条件によっては出席停止の措置が必要と考えられる伝染病」のひとつとして例示されています。